

81.3 ジェット決戦へ!

勝利の全国陣形を

12.7 三里塚
現地集會

日刊 動労千葉

80.12.9

No.602

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)三三三三(二七二〇七)

ジェット延長阻止 動労千葉
支援の初現場集會も雨か

81・3 ジェット延長阻止、動労千葉支援・二期工事阻止を真正面からかかげた、初の12・7現地総決起集會は、岩山小学校跡地において三千五百余名の結集をもって開催された。動労千葉は、第四回定期大会で決定した八一・三ジェット燃料貨車輸送延長阻止の方針を高々と掲げ一七〇名の部隊をもって集會に参加した。集會の全参加者は、動労千葉が労農連帯の真価と、八〇年代労働運動の戦闘的転換をかけた「八一・三」にストライキで決起する決意に応え、動労千葉支援・連帯の巨万の陣形をつくりだすことを確認した。

動労千葉の闘いに応えよ!

— 石橋委員長代行 —

集會は、十二時四五分、反対同盟の石井英祐・寺内金一両氏を司會に、内田行動隊長の開會宣言ではじまり、主催者あいさつにたつた石橋副委員長は、

「八一年三月を前に動労千葉、反対同盟が両輪となってジェット燃料延長阻止を闘う時機が到来した。動労千葉が組織をかけて動労『本部』革マル分子の敵対を粉碎し闘う八一・三闘争に絶大な支援を」と訴えた。

基調報告にたつた北原事務局長は、われわれの闘いの基本姿勢は「『代償を求めない』『代償を求めるとすれば、空港を廃港にし、元の原野にもどせ』である。これをもって敵の攻撃を粉碎してきた。」と一年間の総括し、「来年三月へむけて組織をかけて闘う動労千葉の闘いにどう応え、どう支えるのか、三里塚を闘う者のすべてにかかっている。反対同盟は、来年一月十一日旗びらきをもって戦闘宣言の場とする。そして1・24総決起集會を動労千葉と共に催で行う。すべての皆さんは結集しよう」と力強く提起した。

中野書記長が特別報告

万雷の拍手のなか、堀口佐倉支部長、森内成田支部書記長を伴って壇上にたつた中野書記長は、第四回定期大会方針に踏まえた烈然たる決意を表明した。

中野書記長は、動労千葉は第四回大会で階級情



中野書記長の特別報告、堀口佐倉支部長・森内成田支部書記長の決意表明を熱烈な拍手が包んだ。(12・7岩山小学校跡地)

勢の激動化、政治の反動化と労働運動の右傾化の中で、八一・三ジェット闘争にかつてない強力なストライキを含むあらゆる手段を駆使して決起することを決定したと報告し、動労千葉八一・三決起の意義を次のように明らかにした。

第一に、三里塚を絶対に勝利させたい。今日の日帝国家権力と対峙する最大の闘いが三里塚であり、この闘いの勝利をもって階級関係の逆転をかちとれるからだ。

第二に、労働運動をめぐる情勢は、極めて惨たんなる状況にあるが、八一・三の闘いの爆発・勝利の中で労働運動の戦闘的転換と三里塚闘争勝利の構図を獲得できるからだ。

第三に、八一・三闘争の爆発をもって、反対同盟・動労千葉・あらゆる闘う人民に敵対する「本部」革マル分子を粉碎・追放すること。この闘いを通して労働連帯を磨きあげ確立しぬくことである。三里塚闘争の勝利はこの中のみあると確信するからである。

と鮮明に提起し、続いて堀口・森内両氏が闘う拠点として決意を表明し圧倒的な拍手に包まれた。集會は、八一・三を反対同盟・動労千葉と連帯して闘う決意が各支援団体からつぎつぎと述べられた。その後、反対同盟からは、木の根、天神峰、東峰の二期工区内で闘う農民、そして各学区代表の農民がそれぞれ動労千葉の決意に応え団結を強固にして闘う決意が表明され、八一・三ジェット決戦勝利へむけた集會宣言を採択し成功裡に集會は終了し、夕やみの中タイムマッデモへと出発した。